

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
4.0'	重要トラブル	以下の条件を満たす場合、瞬快クライアントをインストールしてから30日経過後、ドメインへログオン出来なくなる。 ・瞬快Rel.4.0クライアントがインストールされている。 ・ドメイン環境でドメインログオンの運用である。	プログラムの修正を行いました。	ALL Rel.4.0のみ	弊社サポートセンターまでお問い合わせください。	
4.0a	新サービスパック対応	Windows Server 2003 SP1 に対応しました。	新しいサービスパック対応を実施しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	マカフィー社 Managed VirusScanと瞬快の共存に対応しました。	新しいウイルス対策ソフトに対する対応を実施しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	ファイル・フォルダ単位の設定のみ有効です。
	ウイルス対策ソフト連携	トレンドマイクロ社 ウィルスバスター コーポレートエディション 7.0と瞬快の共存に対応しました。	新しいウイルス対策ソフトに対する対応を実施しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	ファイル・フォルダ単位の設定のみ有効です。
	ウイルス対策ソフト連携	日本エフ・セキュア社 F-Secureアンチウイルス クライアントセキュリティと瞬快の共存に対応しました。	新しいウイルス対策ソフトに対する対応を実施しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	ファイル・フォルダ単位の設定のみ有効です。
	運用時	Windowsファイアウォール機能が有効な状態で、突然瞬快のリモート管理機能から操作が行えなくなる。	ドメインプロファイルと、ローカルプロファイルの両方に対して、瞬快のプログラムを例外リストに登録するようにしました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	瞬快のアイコンが赤くなり、瞬間復元機能が動作しない機種がある	瞬快がロードされるタイミングによりOSの他機能との競合が発生する場合に、競合を回避するよう対応しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	NEC MATE MY28V/R-Fのみ発生しておりました。
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	ログオン・ログオフ処理が正常に行えなくなる場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	修復対象領域の設定にて、全角空白文字を含む、文字列を指定しないようにしてください。(フォルダ名の変更/ファイル名の変更など。)	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	修復無効モードに変更した後、システムのイベントに次のイベントが出力される。 ソース名: Service Control Manager イベントID: 7026 「次のブート開始ドライバまたはシステム開始ドライバを読み込むことができませんでした。SKFSD」	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位/ パーティション単位)	更新モードでの動作中、異常にディスク使用量を利用してしまう場合がある。	瞬快をインストールした環境においては、ブートオプティマイズ機能を停止するように処理を見直しました。	ALL Rel.4.0'以前	以下のレジストリキー値を設定してください。 [HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\WDfrg\BootOptimizeFunction] "Enable"="N" (無効)	
	Windows Update連携機能	管理機能に複数のNICが接続されている状態で、Windows Update連携が正常に動作しない場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	マイネットワークのプロパティより、メニューの「詳細設定」>「詳細設定」を選択し、Windows Update連携を実行するNICの優先順位を高くしてください。	
	リモートログオン (リモートログオン方式に SKGINAを選択した場合)	リモートログオン後、Ctrl+Alt+Delキーを押した画面でログオン情報のユーザ名や日付などが表示されない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	リモートログオン方式をSLFLOGON方式にて運用ください。	
	リモートログオン (リモートログオン方式に SKGINAを選択した場合)	ログオンスクリプトを設定しているユーザにて、リモートログオンを実施しても、ログオンスクリプトが動作しない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	リモートログオン方式をSLFLOGON方式にて運用ください。	
	リモートログオン (リモートログオン方式に SKGINAを選択した場合)	パスワード付きのスクリーンセーバーが有効になっているユーザにてリモートログオンを行った場合、スクリーンセーバーが有効にならない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	リモートログオン方式をSLFLOGON方式にて運用ください。	
	リモートログオン (リモートログオン方式に SLFLOGONを選択した場合)	簡易ユーザ切り換えを使用している環境で、リモートログオンが実行ができない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前かつ、 WindowsXPのみ	リモートログオン方式をSKGINA方式にて運用ください。	
	リモートログオン	ログオン、またはログオフ中にリモートログオン機能からログオン、ログオフを実行すると、アプリケーションエラーが発生する場合があります。	リモートログオン機能より、ログオン、またはログオフ処理実行直後に再度ログオン、またはログオフ処理が行われた場合、クライアント側で、処理を行わないように修正しました。	ALL Rel.4.0'以前	ログオフ、またはログオン処理を実行後、しばらく時間を空けてから再度ログオフ、またはログオン処理を実行してください。	
	システムリカバリ機能	クライアントPCの設定で、コンピュータ名、IPアドレスの変更は可能ですが、DNSサーバのアドレス(優先、代替DNSサーバ)変更まで行いたい。	DNSサーバのアドレス(優先、代替DNSサーバのアドレス)まで設定可能であるように、機能強化しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0'以前	なし	
	システムリカバリ機能	サービスの予約機能において、一回のみしか実行できないため、スケジューリングを行っての運用が出来ない。	予約機能において、実行後も予約状態を保つように機能強化しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0'以前	なし	
	システムリカバリ機能	同一セグメント上に複数のシステムリカバリサーバを構築したい。	同一セグメント上に複数のシステムリカバリサーバを構築しても動作可能であるように、機能強化しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0'以前	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	システムリカバリ機能	クライアント登録機能を実行すると、既に登録済みクライアントPCであっても、登録処理が実行される。	既に登録済みクライアントPCについては、クライアント登録機能が実行されても、ローカルブートするように修正しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0'以前	なし	
	レベルアップ (管理機能のみ)	レベルアップを実施した後、個別に変更した環境設定ファイルの内容が初期化されてしまう。	レベルアップ前に、環境設定ファイルの内容を記憶し、レベルアップ後に設定するように処理を見直しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	レベルアップ (サーバ機能のみ)	レベルアップを実施した後、アプリケーションの追加と削除からアンインストールを行うと、「新しいバージョンの製品が既にインストールされています。」というメッセージが表示され、アンインストール出来なくなる。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0からRel.4.0' ヘルベルアップしたときのみ	製品CD-ROMのサーバインストールを実行して頂き、メンテナンスメニューより削除を選択して、アンインストールを実施してください。	
	バージョンアップ (サーバ機能のみ)	初期設定のインストールフォルダとは違ったフォルダを指定してインストールを行った場合、バージョンアップが出来なくなる。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.3.5以前から Rel.4.0 or Rel.4.0' へバージョンアップしたときのみ	Rel.3.5以前のサーバ機能をアンインストールして頂き、Rel.4.0サーバ機能を新規インストールしてください。	
	その他	Windows標準のDHCP設定において、MAOアドレス予約を行う場合、手間がかかるが、簡単にMACアドレスの予約を行いたい。	瞬快の管理機能に登録されているクライアント情報を元に、NETSHコマンドにてインポート可能である形式にて出力されるように改善しました。	ALL Rel.4.0'以前	お手数をお掛け致しますが、手動にて登録をお願い致します。	
	その他	スタンドアロンでの運用を想定しているが、クライアント機能インストール時に瞬快サーバ名の入力が必要となっている。そのためクライアント機能のインストール作業が行えない。	サーバ名指定画面において、スタンドアロン運用も選択可能に変更しました。	ALL Rel.4.0'以前	サーバ名の指定で、存在しないサーバ名を指定してください。	
	その他	瞬快クライアント機能の状態取得コマンドのローカル版(SKSTAT.EXE)を追加して欲しい。	リモートからの状態取得コマンドしかありませんでしたが、ローカル版の状態取得コマンドを追加しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	その他	Windows XP HomeEditionに対して瞬快サーバ機能のインストール可能としました。	プログラムを改修しました。	□並 Rel.4.0'以前	なし	
	その他	ログオンパネルの表示設定で、Ctrl+Alt+Delを押した後、Escキーを押し、再度Ctrl+Alt+Delキーを押すと、ログオン先がドメインからローカルに変わってしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	その他	以下の機能が動作中スタンバイモードへ切り替わらないように変更しました。 ・WindowsUpdate連携中 ・資源適用中 ・アプリケーション登録中 ・ファイル登録中	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	なし	
	その他	Sleep.exeを実行してもスリープが実行されない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0'以前	Sleep.exeと同フォルダに、CD-ROM内のTOOLフォルダに格納されているMFC711.dllとMSVCR71.dllをコピーしてください。	
4.0b	新OS対応	Windows Server 2003 Standard x64 Editionに対応しました。	新しいOS対応を実施しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	管理機能、サーバ機能のみ対応
	ウイルス対策ソフト連携	シマンテック社Symantec AntiVirus Corporate Edition 10.0と瞬快の共存に対応しました。	新しいウイルス対策ソフトに対する対応を実施しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	ファイル・フォルダ単位の設定のみ有効です。
	ウイルス対策ソフト連携	トレンドマイクロ社 ウィルスバスター 2006と瞬快の共存に対応しました。	新しいウイルス対策ソフトに対する対応を実施しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	ファイル・フォルダ単位の設定のみ有効です。
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	MDL社 ISIS Drawを起動して終了すると、ISIS Drawが終了時に、以下のようなメッセージを出力する。 メッセージ: SetFileSecurity() failed. Error 317	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	EPSON GT-F500iに添付の『EPSON Smart Panel』を実行するとアプリケーションエラーが発生し、起動できない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	新規作成したファイルをCD書き込みウィザードに準備した後、ごみ箱へ移動する、または完全削除した場合、作成したファイルの内容が0KBバイトになってしまう。(既存ファイルの場合、影響ありません。)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	修復対象領域に存在する、ファイルサイズが4GBを超えるようなファイル(VMWareのファイルなどが該当します。)にアクセスした場合、OSが再起動される場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	瞬間復元ドライバ (ファイル・フォルダ単位)	WindowsUpdateを行った後、修復モードに変更して運用を行っている時、Windowsが起動してから数分～数十分後に突然再起動する場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	弊社サポートセンターまでお問い合わせください。	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	リモートログオン (リモートログオン方式に SLFLOGONを選択した場合)	Windows XPの簡易ユーザ切り替え画面の状態で、スクリーンセーバーが起動中、リモートログオンが実行できない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	管理機能	ポート番号を初期設定(10501)から変更した場合、管理機能からクライアント情報の取得が行えない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	弊社サポートセンターまでお問い合わせください。	
	管理機能	サーバOS上に管理機能をインストールした場合、ファイル登録機能がインストール出来ない。ファイル登録機能がインストール出来るようにし、ファイル登録処理をサーバOS上でも実行できるようにして欲しい。	サーバOSに管理機能をインストールした場合でも、ファイル登録機能のインストール/ファイル登録処理が行えるように、機能強化しました。	<input type="checkbox"/> 並+資源OP <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	なし	
	管理機能	Rel.4.0の管理機能から、Rel.3.5系のクライアント機能(パーティション単位の設定)を操作する場合、以下の機能が正常に動作しない。 ・モード変更 ・修復対象領域の設定	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前 復元タイプがパーティション単位のみ	なし	
	管理機能 システムリカバリ管理機能	「最新の状態に更新」を行うと、選択していた状態が再描画により失われる。選択した状態を保持して欲しい。	最新の状態に更新を行っても、選択状態を保持するように、機能強化しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	管理機能 システムリカバリ管理機能	見やすいサイズ/位置に画面を変更したにも関わらず、管理機能を一度終了すると元の状態に戻る。再度起動したときには、前回終了時のサイズ/位置で起動して欲しい。	終了時の画面サイズ/位置を記憶し、起動時には終了時と同じサイズ/位置で起動するように、機能強化しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	システムリカバリ管理機能	サーバと管理機能が同一端末にインストールされている場合、システムリカバリサーバへ接続するためのユーザ名入力画面を無くして欲しい。	プログラムを改修しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	なし	システムリカバリサーバへ接続は、実行ユーザ権限で行います。そのためシステムリカバリ管理機能の起動はDeployment Adminsグループに属するユーザにて行ってください。
	WindowsUpdate連携機能	パッチが適用されているにも関わらず、実行結果には、「全ての更新に失敗しました。(ErrorCode=191)」と表示される場合がある。	システムのイベントログが最大サイズに達したため、適用結果が出力されない環境で発生します。本現象を回避するため、クライアント機能インストール時、システムのイベントログは、「必要に応じてイベントを上書きする」設定に変更する処理を追加しました。	ALL Rel.4.0a以前	システムのイベントログにおける設定を変更するか、もしくはシステムのイベントログを削除してください。	クライアント機能を実行インストールすることで、インストール前の設定に戻します。
	サーバ機能	24時間稼働しているサーバに瞬快サーバをインストールしていると、突然クライアント情報が削除される場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	システムリカバリ機能	サーバとクライアントが別セグメントの場合、「Requesting more DHCP options」のメッセージが表示されたまま、40秒程度処理が中断する。	プログラムを改修しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	弊社サポートセンターまでお問い合わせください。	
	システムリカバリ機能	マルチキャスト配信において、一台のみエラーとなった場合、マルチキャスト配信が完了するまでエラーとなった一台にサービスが実行できない。実行できるようにして欲しい。	エラーとなった一台に対して、再度サービスが実行できるように、機能強化しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前		
	システムリカバリ機能 (クライアント機能)	システムリカバリクライアント機能をインストールした後、シャットダウンまでの時間が長くなる場合がある。 (シャットダウンが完了するまで、最大で30秒になります。シャットダウン完了まで30秒程度の環境では影響ありません。)	プログラムを改修しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	なし	
	システムリカバリ機能 (クライアント機能)	システムリカバリクライアント機能の動作、具体的には、個別設定を行っている状況が把握できない。状況が把握できるようにして欲しい。	画面に各処理の動作を表示するように、機能強化しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	なし	
	バージョンアップ (サーバ機能のみ)	サーバ機能をバージョンアップすると、WindowsUpdate連携で実行したログ情報が削除されてしまう。	プログラムを改修しました。	<input type="checkbox"/> 上 <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	弊社サポートセンターまでお問い合わせください。	
	その他	アプリケーション登録処理中、以下の条件が全て該当するファイルが存在する環境において、エラーが発生する。 ・アクセス権なし ・排他ファイル	プログラムを改修しました。	<input type="checkbox"/> 並+資源OP <input type="checkbox"/> 上+資源OP <input type="checkbox"/> 特上 Rel.4.0a以前	なし	
	その他	コマンド(RPOFFEXE)実行における通信処理で、環境に依存しないようにタイムアウト時間が指定できるようにして欲しい。	通信のタイムアウト時間を明示的に指定できるように、機能強化しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
	その他	メッセージダイアログが表示されるが、メッセージの内容が、「message not found」となる場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0a以前	なし	
4.0c	WindowsUpdate連携機能	Updateサイトに、WSUSをサポートして欲しい。	WSUSをサポートしました。これに伴いユーザーインターフェイスと全般的な動作を変更しました。	ALL	なし	
	WindowsUpdate連携機能	Automatic Updateサービスの開始、停止に時間を要することがあり、ErrorCode174が発生する場合がある。		ALL	WUDT.INIファイルの「SERVICEWAITTIME」の値を大きくすることで対処可能	
	WindowsUpdate連携機能	Windows Update管理機能でスケジュールを作成する場合、スケジュール名を半角ピリオドから始まる名称をつけるとエラーとなりスケジュール作成に失敗してしまう。	半角ピリオドから始まるスケジュールは作成できないように制限を加えた。	ALL	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	WindowsUpdate連携機能	Windows Update管理機能で新しくスケジュールを作成した場合、内容が初期化されるため毎回詳細設定を変更する必要があります。前回の設定を覚えておくようにしてほしい。	前回の設定を覚えておき、次回スケジュールを作成する時には、前回の設定内容を初期値として表示するように変更しました。	ALL	なし	
	WindowsUpdate連携機能	WindowsUpdate管理機能のウインドウ位置とサイズが起動するたびに毎回初期化されてしまう。	前回終了時の位置とサイズを記憶しておき、次回起動時に位置とサイズで表示されるように修正しました。	ALL	なし	
	WindowsUpdate連携機能	WindowsUpdate連携の動作結果で、「全てのクライアントでエラーが発生しました」と表示されるべきだが、「一部のクライアントPCでエラーが発生しました」と誤った表示をすることがある。	プログラムを改修しました。	ALL	なし	
	WindowsUpdate連携機能	実行結果のメール通知機能で、成功/失敗した端末名がわかるようにしてほしい。	プログラムを改修しました。	ALL	なし	
	WindowsUpdate連携機能	スケジュール実行中に「全てのログをクリア」を行なうと、動作中のスケジュールが終わった際、実行結果詳細ログが空白で表示される。	プログラムを改修しました。	ALL	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	McAfeeManagedVirusScan plus AntiSpywareに対応してほしい	対応しました。	ALL	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	ウイルスバスター2005がインストールされた瞬快クライアントに対して管理機能から情報を取得するとウイルス対策ソフト名が“?”と表示されてしまう。	プログラムを改修しました。	ALL	なし	
	管理機能	管理機能からクライアントPCの瞬快のマイナーバージョンを確認できるようにしてほしい	管理機能のクライアントPC一覧に表示されるようにしました。	ALL	なし	
	管理機能	管理機能のクライアントPC一覧のカラムサイズが起動するたびに毎回初期化されてしまう。	前回終了時のカラムサイズを記憶しておき、次回起動時に同じカラムサイズで表示されるように修正しました。	ALL	なし	
	システムリカバリ管理機能	システムリカバリ管理機能のクライアントPC一覧のカラムサイズが起動するたびに毎回初期化されてしまう。	前回終了時のカラムサイズを記憶しておき、次回起動時に同じカラムサイズで表示されるように修正しました。	□上 □上+資源OP □特上	なし	
	瞬間復元ドライバ	更新モードで動作時させると、OSの起動が遅くなるなど動作が不安定になることがある。	更新モードで動作時の、ディスクへのアクセスの信頼性を向上させました	ALL	なし	
	瞬間復元ドライバ	修復ポイントの設定処理を安定して動作するようにしてほしい。	修復ポイント設定の事前書き込みテスト機能を搭載しました。	ALL	なし	
	瞬間復元ドライバ	ディスクの空き容量が20%以下になると警告メッセージが表示されるが、まだ数十ギガバイトの空きがあるので警告メッセージを出さないようにしてほしい。	警告メッセージが表示される閾値を定義ファイルで変更できるように修正しました。	ALL	なし	
	その他	管理機能からサーバ選択時に、FQDN名かつ16文字以上の指定を行った場合、WindowsUpdate管理機能を起動しようとする時バッドアクセスエラーが発生する。	プログラムを改修しました。	ALL	なし	
	その他	瞬間復元機能と、WindowsXPのプリフェッチ機能が競合し、正常に動作しない場合がある。	WindowsXPのプリフェッチ機能をオン、オフできる機能を実装しました。	ALL	オフにするには以下のレジストリを設定してください。 HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\FileSystem\Nfs\Parameters 名前: EnablePrefetcher データ: 0	
	その他	マルチブート環境での起動OSをコマンドで選択できるようにしたい。	RCHMODE.EXE、CHMODE.EXEで切り替える機能を実装しました。	ALL	なし	
	その他	RCHMODE.EXE、CHMODE.EXEで動作モード切り替え時に、強制修復が実行されるべき動作が統一されていない。	修復スケジュールの変更時は、そのスケジュールに従うように変更しました。 動作モード変更時は、修復無効モードから別のモードに変わる場合を除いて、強制修復がかかるように統一しました。	ALL	なし	
4.0d	システムリカバリ機能	システムリカバリサーバとシステムリカバリクライアントを共存させているとき、システムリカバリサーバをアンインストールするとシステムリカバリクライアントに必要なレジストリキーまで削除してしまう。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	システムリカバリサーバとシステムリカバリクライアントは同一コンピュータにインストールしないでください。	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ管理機能で、以下の手順でサービスを作成すると「サービスの作成に失敗しました」のメッセージが出る。 1) 通常通りにSROサーバをインストール 2) SRO管理機能で任意のサービスを作る。(例:test) 3) SROサーバをアンインストールする。この時「管理DBを削除する」にチェックを入れた状態。 4) SROサーバを再インストールする。 5) SRO管理機能を起動して同じサービス名で再度「test」を登録しようとする。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	なし	
	システムリカバリ機能	Linuxの環境設定に置いて固定IP設定かつDNSアドレスが未設定の場合にエラーとなってしまう。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	なし	
	システムリカバリ機能	システムリカバリの後処理のユーザ指定処理の際、登録したバッチコマンドが0を返さない場合に、エラーを無視して正常と判定するチェックボックスを追加しました。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	なし	
	システムリカバリ機能	「」を先頭に利用するサービス名を指定すると、エラーとなる。	「」を先頭に指定できないようにプログラムを修正しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	システムリカバリ機能	以下の条件において、サービスの編集や、サービスのプロパティを行うと、ユーザ指定処理のバッチ名や、サイレントインストールのパス名が空白で表示されてしまう。 (1)1台のシステムリカバリサーバを複数のシステムリカバリ管理機能で運用している場合に、サービスを作成していない管理機能から、サービスの編集を行った場合 または (2)管理機能をバージョンアップ、または、レベルアップし、レベルアップ前に作成した既存のスケジュールを編集した際	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	なし	UIの初期表示が壊れるだけで、既存サービスの動作には問題ありません。
	システムリカバリ機能	システムリカバリクライアント機能において、システム的环境変数(%TEMP%)を変更した場合、正常に動作しない。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	システム的环境変数を変更しないようにしてください。	
	システムリカバリ機能	ドメイン参加用のユーザ名指定において、パスワードの文字数制限が14文字となっている。しかし、Windows2000以降のユーザアカウントはパスワードに14文字以上指定することが可能なので、14文字という制限を解除して欲しい。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	なし	
	システムリカバリ機能	瞬快R4.0/R5.0のシステムリカバリ機能において、イメージ取得を行ったヒナ型クライアントが固定IPアドレスでの運用の場合、イメージ配信時にそのヒナ型クライアントも配信対象に含めてイメージ配信した場合、IPアドレスの衝突が起こり、正しくイメージ配信(正確にはイメージ配信処理後の後処理)が行えない。	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	ヒナ型クライアントを配信対象に含めないようにしてください。	
	システムリカバリ機能	システムリカバリ機能で利用するひな型コンピュータに対して、ひな形作成前にWSUSでの動作実績がある場合、そのひな型を配信したクライアントは、WSUSの管理コンソールからクライアントPCの制御が出来なくなる。(全てのクライアントPCが一台として認識されます)	プログラムを改修しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	システムリカバリ機能で利用するひな型に対して、事前にWSUSを利用したバッチ適用はしないようにしてください。	
	システムリカバリ機能	運用中に、PXEサーバがアプリケーションエラーを出力し終了する場合があります。	プログラムを修正しました。	□上 □上+資源OP □特上 Rel.4.0c以前	PXEサービスを再起動してください。	
	WindowsUpdate連携機能	Windows Update管理機能の新規スケジュール作成処理で、以前設定した詳細設定内容を保持するように修正しました。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	ウイルス対策ソフト連携	SymantecAntiVirus CorporateEdition10.1との連携に対応しました。	設定を見直しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	管理機能	複数のクライアントを選択し、「クライアントPCの環境設定」を実行した場合、「リモートログオンタイプの取得に失敗しました。」が表示される場合があります。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	電源オフのクライアントPCを除外して選択すれば現象は発生しません。	
	管理機能	管理機能で最新の情報に更新を実行すると、まれにクライアントの状態が「プロトコルエラー」と表示され、以降そのクライアントを操作できなくなる。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	管理機能	管理機能からクライアントの電源オフを行った場合、電源が落ちずに「電源を切る準備ができました」のメッセージが表示される場合があります。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	管理機能	瞬快管理機能を起動する際、サーバ名に17文字以上のサーバ名を指定すると、その管理機能をアンインストールしようとすると、エラーが発生する。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	クライアント機能	ChemOfficeがインストールされている環境下で以下の操作を行うと、「Microsoft SQL Server Desktop Engine(以下MSDE)」のセットアップインストーラが起動してしまう。 ・イメージ配信後の後処理での瞬快クライアントサイレントインストール ・瞬快クライアントのアンインストール	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	Microsoft社のサイトを参照してください。(参照URL:http://support.microsoft.com/?kbid=889289)	
	クライアント機能	ランチャーアイコンを右ダブルクリックすると、「SKE00023 テンポラリファイルの書き出しに失敗しました」のメッセージが表示される。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	OKボタンを押下し、そのまま処理を継続して問題ありません。	
	瞬間復元ドライバ	エプソン社製エンデバーAT9551において、瞬間復元ドライバを修復モードからバックアップモードに変更すると、変更後OSが再起動を繰り返す場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	OS起動時にPageUpキーを押下し、簡易環境設定メニュー画面を表示し、「キャンセル」を選択してください。	
	瞬間復元ドライバ	エクスプローラにおいて、修復対象のディレクトリ内のファイルをコピー、またはリネームした時、コピーで作成されたファイル、またはリネームしたファイルのプロパティ情報が欠落する。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ単位	なし	
	瞬間復元ドライバ	Ulead社の「DVD MovieWriter 4」にてビデオデータをキャプチャし、「キャプチャ終了」ボタンを押すと、「キャプチャ失敗、キャプチャしたファイルが壊れている可能性があるので削除する」と表示され、キャプチャできない。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ単位	なし	

対応製品レベル	カテゴリ	現象/内容	変更内容	影響範囲	従来製品での回避/対応方法	備考
	瞬間復元ドライブ	修復対象となっているファイルを編集する場合、エクスプローラでそのファイル一覧を参照していてもファイルサイズ・タイムスタンプの変更結果が即時反映されない。 (「最新の情報に更新」を実施することで反映される)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ 単位	「最新の情報に更新」を実施してください。	
	瞬間復元ドライブ	一般ユーザ権限で、フリーソフトのLHAPlusにてファイル圧縮を実行すると、エラーとなり圧縮できない。(管理者権限ユーザの場合は問題なく圧縮される)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ 単位	管理者権限ユーザにてLhaplusを利用してください。	
	瞬間復元ドライブ	瞬快クライアント機能を修復無効モードでインストールされている環境をイメージ取得し、ディスクイメージの配信を行う。配信後、クライアントPCを起動し、ログオンするとスプナアイコンが赤色で表示される場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	瞬間復元ドライブ	sophos antivirusがインストールされている環境において、瞬快のドライブが停止してしまう場合がある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ 単位	なし	sophos antivirusと瞬快がウイルス対策ソフト連携しているわけではありません。
	瞬間復元ドライブ	MacromediaのFreeHandMXというソフトで一般ユーザ権限で、新規ファイル作成を行うとファイルの作成に失敗してしまう場合がある。(管理者権限ユーザでは問題なし)	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ 単位	管理者権限ユーザにてFreeHandMXを利用してください。	
	瞬間復元ドライブ	瞬快をファイル・フォルダ単位でインストールした後、修復対象内にEXEをコピーしてから、コピー先のEXEを実行すると、タスクマネージャにて表示されるプロセス名が、テンポラリファイル名(4aなど)になってしまう。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前 ファイルフォルダ 単位	なし	
	資源配付機能	管理機能から資源配付タブを開き、配付指示を出した時、画面右下のフレームの「処理日時」列に表示される日時情報が、指示を出した日時ではなく資源を登録した日時になっている。 正しくは、配付の指示を出した日時が入るべきである。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	F5キーを押し最新情報を取得しなおすと、正しい日時が表示されます。	
	資源配付機能	資源配付を行なうと、リモートログオンタイプがSKGINAからSfllogonに変わってしまう	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	資源配付機能	cygwinのインストールされた環境でアプリ登録を行うとアプリケーションエラーが発生することがある。	プログラムを改修しました。	ALL Rel.4.0c以前	なし	
	クライアントインストーラ	修復無効モードでクライアントを版数アップ・バージョンアップしても、モジュールが更新されない場合がある。	プログラムを修正しました。	ALL Rel.5.0a以前	更新モードにて版数アップ・バージョンアップしてください。	修復無効モードからのクライアント版数アップ・バージョンアップにおいて、再起動の回数が1回増加しています。